

造園科学専攻博士前期課程 1 年 市川天音

「今回私はこのプログラムを通して、農業は色々な要素が組み合わさって成立している産業であることを改めて実感しました。

前半の講義では日本の気候や農業の歴史、生産者と消費者の関係をはじめ、農作物の生育環境である土壌の物理性、生物性、化学性や農業のデジタル化、農産物の第六次産業化などについて幅広く学びました。また、プログラムの後半では実際に石川県を訪れ、机上では学べない多くのことを感じることができたと思います。

初日に訪れた近江町市場では、江戸時代から続く市場の歴史に思いを馳せながら、市場の人とコミュニケーションを取ることができました。私は過去に何度か近江町市場を訪れたことがありましたが、やはり「食」が人々の原動力となり、活気に満ちた市場が受け継がれてきたことを実感しました。

また2日目以降には JA や農事組合法人を訪れ、JA の仕組みや購買者に対する工夫、またそれぞれの農家さんが誇りに思っていることや直面している課題などについて直接お話を伺うことができました。

また神子の里で棚田を見学した際に、石川県では豊かな自然環境を生かして農業を行い、それに密接した暮らしが営まれてきたことがわかりました。その土地の地形や気候を理解し、最適な方法を取り入れ、どのように収益化していくかということを考えながら継続していくことの重要性を感じました。

持続可能な社会については、少子高齢化が進む中で機械化を進めてきたことなどを学び、今あるものをいかに工夫して後世に残していくかという課題があることがわかりました。しかしこれは石川県に限らず日本全体にも言えることだと思うので、どのように農業従事者を増やすか、いかに環境に配慮しながら作業効率を上げるかなど、他の地域の例も参考にしながら今後も考えていくべき課題であると思いました。

感想としては、私の専攻は造園学であるため、農業のある風景に興味はあったものの農業の深い部分まで理解できていなかったのもので、その空間がどのようにしてできてきたのか、またその空間ではどのようなことが行われていて、どんな課題があるのかを考える良い機会になりました。持続可能な社会と農業には密接な関係があると思うので、これからも農業に関わる人々だけでなく、食を楽しみ食に向き合う全ての人々を巻き込んで考え、発信し続けるべきであると思いました。

また、今回学んだことに対してどのような立場から関わり、仕事にしていくかを今後考えていきたいと思いました。」

